

関連法規等

- ・日本国憲法
- ・教育基本法
- ・学校教育法
- ・学習指導要領
- ・東京都教育委員会目標
- ・練馬区教育委員会
教育目標 等

各教科の指導の重点

- ・基礎的・基本的な内容の定着を図る。東京ベーシック・ドリルを活用する。
- ・「読む」「書く」「繰り返す」の確実な実施と多様な意見から学びを深める学び合いができるようにする。

総合的な学習の時間の重点

- 【知識及び技能】
探究的な学習のプロセスの中で、問題解決的に学ぶことの大切さを理解する。
- 【思考力・判断力・表現力等】
身近な社会の中から課題を設定し、情報を収集・整理・分析し、考えを目的や意図に応じて表現することができるようにする。
- 【学びに向かう人間性等】
探究的な学習を通して、自分にできることは何かを考え、生活を豊かにしていこうとする態度を育てる。

外国語活動の指導の重点

- ・指導のねらいや方法などを明確にし、児童が体験的に諸外国の言語や文化を学べるようにする。
- ・外国語に親しみながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

進路指導の重点

- ・社会体験を重ね、将来の生活に夢をもつ力を育成する。
- ・幼・保・小・中学校との交流を図り、自分のよさ、可能性に気づき、自分の生き方を考えられるようにする。(キャリア教育)
- ・キャリア・パスポートにより成長の記録をポートフォリオとして蓄積することで社会的・職業的自立にかかる基盤を形成する。

開進第二小学校の教育目標

- 児童、学校及び地域社会の実態に基づき、人権尊重と社会貢献の精神を培い、心身共に健康な児童の育成を目指す。
- ・意欲的に学ぶ子
 - ・広く思いやる子
 - ・進んで体を鍛える子

学校経営方針

- 個別最適な学びと協働的な学びによる「主体的・対話的で深い学び」ができる学校
- 子ども同士・異学年・地域など多様な集団を通して郷土を愛し、お互いに認め合える学校
- 健康に対する意識を向上して健やかに学び、何にでも安心して挑戦する心を育てる学校

目指す15歳の姿(開三中・開二小・開三小)

「自己肯定感をもち、進路(人生)の目標に向けて努力し、社会に貢献できる人」

本校における「確かな学力」

- 本校では学習指導要領に示された基礎・基本を重視し、次の力を育成する。
- ・基礎・基本の確実な定着と「生きる力」
 - ・学ぶ意欲、主体的な判断、よりよく問題を解決する力

基本的な生活習慣・学習習慣

学んだことを生活や学習に生かす力

各教科で身に付けさせたい基礎・基本

読み・書き・計算

児童の実態

- ☆仲のよい友達がいる、外でよく遊び、進んで心身を鍛えている。
- ★自己肯定感が低く、自ら進んで考えて活動する児童が少ない。
- ★与えられた課題には熱心に取り組むが、さらに高めようと主体的に取り組もうとする姿があまり見られない。
- ★異なる考えを組み合わせ、よりよい学びを生み出すことを経験している児童が少ない。

「特別の教科 道徳」の指導の重点

- ・思いやりの心、生命を大切にする心を育てる。
- ・心に響く教材や教具を開発し、自分自身を振り返る学習の充実を図る。

特別活動の指導の重点

- ・帰属意識を高める学級活動
- ・社会の一員として活動する喜び、満足感・成就感を得られる児童会活動
- ・異年齢集団の特質を生かしたふれあいタイム・クラブ活動
- ・進んで実践する学校行事

生活指導の重点

- ・児童と教師の信頼関係の中で、児童が自立し、集団の一員としての自覚をもてるようにする。
- ・開かれた教育相談活動を通して保護者との信頼関係を築き、いじめや不登校を出さない。
- ・全校児童が、気持ちのよいあいさつができるようになることを目指し、活動の工夫をする。
- ・心のふれあい相談員や学校巡回相談員との連携をとり、児童の悩みや心を捉える。
- ・計画的に健康指導・安全指導・セーフティ教室・情報モラル講習会を行う。

授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫

- ・1時間の学習目標を板書に示し、児童自身が狙いを達成できたか振り返る時間を確保した授業を実践する。
- ・児童の発言や考えを最後まで肯定的に聞き続け、児童が安心して発言できる環境を整える。
- ・自分の考えと他者の考えの違いに気づき、何が違うのか説明ができるようにする。
- ・集団や自己の生活について課題を見付け、解決するために積極的に話し合って合意形成をできるようにする。

評価活動の工夫

- ・児童のよさを具体的に表現してほめ、学級全体で認め合うことができるようにする。
- ・各教科の評価規準を作成し、活用する。
- ・単元ごとのテストの結果を一覧表にして、習熟度の傾向を知る。
- ・保護者・地域の方・児童の声を生かす多面的な学校評価を実施し、活用する。

教育課程編成上の工夫

- 個に応じた学習指導を充実させるため、ゆとりある授業時間数を確保する。
- 始業前を活用
 - ・月曜 朝会
 - ・火曜 クラスタイム
 - ・水曜 朝学習
 - 休み時間を活用
 - ・月1回昼休み ふれあいタイム(異学年集団で活動)

家庭や地域社会との連携の工夫

- ・保護者と積極的に関わりながら児童の実態を共有し、児童の思いが達成できるように授業の改善を行う。
- ・緑化指導員を活用し、栽培体験活動を行う。
- ・学校評議員会で学校評価を受けた教育課程について協議し、学校運営を行う。
- ・ホームページによる情報発信を行う。

校内における研究や研修の工夫

- ・校内研究で研究主題を「正しく伝え合える児童の育成」～自分の思いや考えを話したり、正しく捉えたりする力を高める指導を目指して～児童理解による学習について研究を行う。
- ・児童理解、情報教育、人権教育等についての全体研修を行う。
- ・OJT委員会が企画立案し、教員が身に付けるべき力について研修を行う。

小中一貫教育の視点

- ・開進第三中、開進第三小と本校で社会生活に活かせる言語表現ができるように小中一貫教育を推進していく。
- ・授業公開を通し、各学校の指導、児童生徒の学習、集会などの取組を交流していく。
- ・課題改善カリキュラムを活用し、あいさつ運動など、三校共通の取組を図る。

授業改善策の検証方法

- ・児童、保護者からアンケートを取り、確認する。
- ・年度末に各学年で成果と課題を検証する。